

富士見町議会総務経済常任委員会所管事務調査報告書

平成28年10月3日

富士見町議会議長 加々見 保樹 様

総務経済常任委員会副委員長 川合 弘人

2016年9月定例会で、地方自治法第100条第13項及び富士見町議会規則第122条の規定により議決された閉会中の議員派遣の実施結果を、下記の通り報告します。写真2枚を添付します。

記

1. 名 称 総務経済常任委員会所管事務調査
2. 目 的 ①「清水港」の富士見町民への恩恵と現状
②航空自衛隊基地の防空任務活動
3. 派遣場所 ①静岡県静岡市清水区 清水港管理局
②静岡県浜名市 航空自衛隊浜松基地広報館
4. 期 間 2016年9月27日～28日の2日間
5. 派遣議員 五味平一、小池勇、名取久仁春、五味高幸、川合弘人の以上5委員と加々見保樹議長の計6人



【1】清水港

清水港は近い将来、諏訪地方のものづくりにとって重要で身近な港湾になる。そんな思いを抱かせる視察研修となりました。キーワードは中部横断自動車道の開通です。

最初に、清水港管理局のビル内にある会議室で、藤浪哲也局長らから清水港の現状や、中部横断道の開通による新たな事業構想などについて説明を受けました。この後、静岡県が所有する港務艇「日の出」に乗船し、約40分間、清水港の湾内を一周し、大型コンテナ船の荷降ろしの現場などを船上から見学しました。ビルに戻り、質疑応答を行いました。

管理局側も、中部横断道の開通を前に、清水港の優位性を長野県の人に知ってほしいという思いが強く、良いタイミングで視察ができたと思います。

藤浪局長らによる説明の概要は下記の通りです。

① 清水港の港勢

2015年の実績では、取り扱い貨物が1468万トン。主な貨物は輸出が自動車部品、産業機械、紙、パルプ、輸入がLNG、化学薬品、豆類、トウモロコシ。日本一の貿易品は輸出がオートバイ、プラモデル、まぐろの缶詰など、輸入が冷凍まぐろ、紅茶、サッカーボールなど。コンテナ取扱量は51万TEU(6メートルコンテナ1個が1TEU)で全国8位。入港した客船は13隻、帆船は1席だった。

- ② 拡張工事
中部横断道の開通にあわせて、コンテナターミナルの拡張工事が進んでいる。
- ③ 交通ネットワークの拡充
中部横断道の整備、新東名道、圏央道の開通により、甲信地域や、関東エリアの貨物の流れが清水港へと、集まることが期待されている。
- ④ 富士見町―清水港間
中部横断道の開通で、富士見町まで1日2往復が可能になるという。これは、清水港に入港する大型客船のオプションツアーを長野県内まで広げることが可能になるということです。
- ⑤ 中部横断道の無料区間
「余り知られていない情報」ということですが、六郷IC―宮沢IC間の28キロは国土交通省の新直轄区間となるため、通行が無料となるそうです。その他はネクスコの管轄のため有料となる。
- ⑥ 輸送コスト、CO₂の削減効果
諏訪市を例にすると、清水港は日本で一番近い港湾で、一番速く到着できる。高速道路の料金は東京港へ行くよりもよりの安い。輸送効率を向上し、輸送コストの削減にもつながるとしています。
- ⑦ 助成金の活用
長野県へインドネシアから食料品を輸入した場合、12メートルのコンテナ1基で最大5万円の助成金が交付される。対象は、新規または静岡県外の港から清水港に切り替えた輸出入コンテナ貨物。2015年度は約120社に対し、計4066万円の助成金が静岡県から支払われた。
- ⑧ 甲信地区の貨物利用目標
長野県は現在、清水港が4.3%で、東京港31.0%、横浜港24.7%、名古屋港26.0%だが、中部横断道開通後の清水港は20%を目標としている。山梨県は15.5%から目標は25%。これにより、年間のコンテナ取り扱い個数は21800TEUの増加を見込んでいる。



2015年度、清水港の日の出埠頭へ入港した豪華客船はダイヤモンド・プリンセス、飛鳥Ⅱ、にっぽん丸など延べ19隻。藤浪局長は「中部横断道、中央道を通り、富士見町へのオプションツアーも計画したい」とし、具体的にはスキー体験などを挙げた。大型客船の誘致にも活用したいと意欲を示しました。「海外の客船を誘致するには観光地としての魅力が必要。長野県、山梨県の両県と連携し、体験型ツアーのプランニングを提示したい」と語りました。農産物の輸出に関しては「窒素を充填することで酸化を防止する技術が開発されている」とし、高原野菜の海外輸出への可能性にも言及しました。

夢のある話であり、内陸の富士見町としても、清水港と連携することで、観光、農業、工業の発展につなげていくことができればと思いました。

なお、中部横断道は現在、中央道双葉JCT―増穂IC間の16キロが共用開始されています。今年度中には六郷ICまでの9キロ区間が開通する予定です。新東名道の新清水JCTには2017年度中に完成し、全線開通する予定でしたが、工事が事故や遺跡発掘などで遅れており、最低2年は延びるとの見通しも示しました。

【2】航空自衛隊浜松基地広報館「エアパーク」

浜松基地の広報館を、一般客らと一緒に見学しました。広報館は航空自衛隊の任務と活動を展示紹介しています。このうち、資料館には戦闘機や装備品が展示され、飛行シミュレーター、全天周の映像シアターも併設されています。

資料館に隣接する展示格納庫には、歴代の航空機19機が展示されています。F-1支援戦闘機や、F-104J戦闘機、T-6練習機のほか、救難捜索機、救難ヘリコプターなどがあり、東京五輪の開会式で五輪マークを大空に描いたブルーインパルス（F-86F戦闘機）もありました。元航空自衛隊パイロットが、隊員の訓練のようすや、日本の防空の現状などについて解説してくれました。展示格納庫では、コックピットに着座可能な戦闘機もありました。



写真説明＝静岡県清水港管理局の藤浪哲也局長(右から2人目)の案内で、港務艇「日の出」に乗船し、清水港を視察する富士見町議会議員



写真説明＝清水港の湾内から見る富士山。手前は日の出埠頭に入港したコンテナ船